

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	九州大学
整理番号	A11
構 想 名	戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成 (SHARE-Q)

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) B	事業目的はある程度達成されているが、今後の発展のためには努力が必要と判断される。
(コメント) 事業期間全体において、「多面性（学術分野の多様性を活かした国際連携）」、「発展性（アジア戦略の成果に立脚した世界展開）」、「重層性（研究型総合大学としての層の厚い教育・研究）」という貴学の3つの強みと特色に基づいて大学全体の国際化を進めることで、世界トップレベルの研究教育拠点の確立に向け、各種取組が進められたものとなっている。その方向性においても、大学独自の成果指標として、複数の指標において「世界大学ランキングの向上」を目指した項目が設定され、それぞれの最終目標値においても高いものが設定されているため挑戦的・意欲的であると言える。 特に、各種「世界大学ランキングの向上」の方策として、広報戦略の策定によりデータ分析を行ったほか、国際広報体制の強化や国際会議の誘致、RM 関連のコンサルティングや他大学での事例共有（横展開）、ウェビナーやシンポジウムの開催等を通して、大学の国際的な評価及び認知度の向上を図った点は、構想目的や設定目標等を達成するための適切なアプローチであると評価できる。 一方で、世界大学ランキング向上を急ピッチで目指した弊害として、各種成果指標の設定が意欲的であったこともあり、目標未達のものが多かった。中でも、国際化指標については、中間評価においても改善を求められたところではあるが、効果的な対応がなされたとは言えず、レピュテーションマネジメント（RM）戦略を全面的に掲げ、構想年度の途中からは狭義の RM から広義の RM に深化させる方向転換を図ってはいるが、十分な成果が得られているようには見受けられず残念である。そのほか、留学単位認定システムの不備などに対応した取組みの改善に向けた動きは行われたようであるが、こちらも成果としては満足のいくものとは言えない。 貴学は本構想の事業期間を通して、論文被引用数の向上なくしては大学ランキングの大幅な改善は困難であるというとの認識を有したとしていることから、その自覚を新たにして、今後も世界トップレベルの研究教育拠点の確立に向け、国際化を加速化することを期待したい。そのための具体的な取組みとして引き続き、研究力強化や大学認知度向上への取組みを進めていただきたい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	